

～ちょっとくわしい水道事業会計のはなし～

平成18年度水道事業決算について説明します！

お客様に水道水を送るためには水道水の購入費用や水道施設である配水池やポンプ場、配水管等の建設、維持管理等色々お金がかかります。水道事業は地方公営企業法という法律によって、その運営には基本的にお客様からいただいた水道料金を使うこととなっています。

水道事業は企業会計で行われているので収益的収支（1年間の短期的な利益や損失をみるもの）と資本的収支（財産や投資的なもの）に分けてお金や財産を管理しています。

● 収益的収支について

それではまず、平成18年度の収益的収支について説明します。

水道事業収入は82.8億円でその内水道料金収入は78億円（収益の約94%）ありました。

次に水道事業支出内訳ですが、まず一番大きな費用は県からの浄水の購入費用で全費用の約半分の40.7億円使いました。（那覇市は浄水場を持っていないので県企業局が浄水した水道水を購入してお客様に水を送っています。）

また、水道事業に働く職員の給与費として12.1億円さらに、施設の修繕に7.3億円かかり、保守点検等の委託料として1.9億円使いました。減価償却費等の現金の支出を伴わない費用として9.0億円があります。これは、施設の建設などの資金として貯めておきます。企業債利息（借金の利息）は3.7億円です。その他の費用として4.5億円支出しました。こうしてこの一年間の収入は82.8億円、支出79.2億円で当年度純利益は3.6億円でした。

● 資本的収支について

今度は資産・負債・資本の関係を説明します。これらは資本取引として、収益的収支とは区別して管理しています。これは、右下の貸借対照表で説明します。

この1年間には庁舎建設などの建設投資を行った結果、固定資産は18.7億円増加して282.2億円となりました。（282.2億円の価値のある資産を持っているということ）。

流動資産（預金等）は8.9億円減少し56.0億円になりました。このうち8.2億円は減債積立金として企業債償還のため使うことが決まっています。

企業債償還金（借金の元本分）は今年5.2億円返済しました（平成18年度はこれに減債積立金5.2億円を充てました。借入の利息分は収益的収支の費用として計上しました。）がまだまだ借金は79.3億円も残っています。これは過去の施設建設（建設投資）の際に国等から借り入れた借金の元金分です。

● 利益について 単なる「もうけ」ではありません！

公営企業である水道事業における当年度純利益（今年度は3.6億円ありました）は民間企業のように会社やその社員のために使えるわけではありません。その「利益」は全て水道事業のために使い、市民に還元することになります。その使い道としては、まだまだ多額の借金がありますし、水道に必要な施設を建設したり更新する資金も必要です。そのためすべての「利益」を減債積立金（借金返済に充てるお金）や建設改良積立金（施設の建設などに充てるお金）として計画的に「貯め」また「使います」。

私たち那覇市上下水道局はこれからも安定した水道事業運営のために努力していきます。

※説明の簡素化のため各数値を修正（切上げ、切下げ）しています。